

交流集会47

看護学研究者主導によるデータベースの 利活用・構築の現状と課題を共有して、 未来を創ろう

以下のQRコード入りの資料を配布しています。

- ① 公開資料「看護学分野でデータベースの利活用・構築を促進するための提言」
 - ② 本交流集会のスライド
 - ③ 交流集会中のチャット（ご意見・ご質問・ご感想等を匿名で入力できるWebアプリ）
 - ④ 事後アンケートご協力のお願い
- ※ 部数に限りがあるため、もしお受け取り頂けなかった場合は、以下のウェブサイトより
アクセス頂ければ幸いです。



東京大学ナーシングデータサイエンス講座>お知らせ>
交流集会にご参加の皆さんへ：第45回日本看護科学学会学術集会（2025年12月7日）



交流集会47

看護学研究者主導によるデータベースの 利活用・構築の現状と課題を共有して、 未来を創ろう

林田 賢史¹, 仲上 豪二郎¹, 深堀 浩樹², 友滝 愛¹, 横田 慎一郎³, 吉永 尚紀⁴, 森岡 典子⁵, 池田 真理¹

1. 東京大学大学院医学系研究科 2. 慶應義塾大学看護医療学部 3. 千葉大学大学院看護学研究院
4. 宮崎大学医学部看護学科 5. 国立保健医療科学院 疫学・統計研究部



スライド：東京大学ナーシングデータサイエンス講座>お知らせ>
交流集会にご参加の皆さんへ：第45回日本看護科学学会学術集会（2025年12月7日）



日本看護科学学会COI 開示

筆頭者名 林田 賢史

所属名 東京大学大学院医学系研究科

共同演者氏名 仲上 豪二朗¹⁾, 深堀 浩樹²⁾, 友滝 愛¹⁾, 横田 慎一郎³⁾,
吉永 尚紀⁴⁾, 森岡 典子⁵⁾, 池田 真理¹⁾

所属名 1)東京大学大学院医学系研究科, 2)慶應義塾大学看護医療学部

3)千葉大学大学院看護学研究院, 4)宮崎大学医学部看護学科

5) 国立保健医療科学院 疫学・統計研究部

演題発表に関し、開示すべきCOI関係にある企業として、

⑥研究費 公益社団法人 日本看護協会

⑧寄附講座 公益社団法人 日本看護協会（東京大学・社会連携講座）

交流集会 進行の目安

時間	内容	演者
8:30	交流集会の進行、企画の経緯について	林田 賢史・友滝 愛 (東京大学)
8:35	「看護学分野でデータベースの利活用・構築を促進するための提言」の作成過程、提言の活用について	深堀 浩樹 (慶應義塾大学)
8:40	看護学分野におけるデータベースの利活用・構築促進に向けて ・看護学分野における動向と課題 ・促進のための提言とそのための取り組み例の紹介	友滝 愛(東京大学)
9:00	データベースの利活用・構築の視点 ・看護師の実践の可視化の必要性 ・教育活動や病院との協働のあり方 ・医療情報学・看護情報学の観点から	仲上 豪二朗(東京大学) 吉永 尚紀(宮崎大学) 横田 慎一郎(千葉大学)
9:15	フロアの皆さまからのご質問、ディスカッション	
9:25	クロージング： 看護学分野でデータベースの利活用・構築促進に向けて	池田 真理 (東京大学)

配布資料

以下のQRコード入りの資料を配布しています

- ① 公開資料「看護学分野でデータベースの利活用・構築を促進するための提言」
- ② 本交流集会のスライド
- ③ 交流集会中のチャット
(ご意見・ご質問・ご感想等を匿名で入力できるWebアプリ)
- ④ 事後アンケートご協力のお願い

※ 以下のウェブサイトからもアクセス頂けます



東京大学ナーシングデータサイエンス講座>お知らせ>
交流集会にご参加の皆さんへ：第45回日本看護科学学会学術集会（2025年12月7日）



交流集会の企画／提言公開の背景

2025.11

「看護学分野でデータベースの利活用・構築を促進するための提言」の公開

JANS
交流集会

看護学研究者主導によるデータベースの利活用・構築の現状と課題を共有し、
看護学研究の未来を創る次の一步に

2025

東京大学・日本看護協会による社会連携講座ナーシングデータサイエンス講座
(東京大学医学系研究科) 開設※

- ✓ データベースの利活用・構築に関する研究
- ✓ 看護学研究者との意見交換会の開催

※ 協力講座：東京大学大学院医学系研究科
・ 健康科学・看護学専攻 看護管理学分野
・ 公共健康医学専攻 臨床疫学／経済学分野

2024

東京大学・日本看護協会の共同研究「看護政策推進のためのエビデンス構築に係る共同研究」[代表：仲上]の一環で、「看護に関するデータベース及びデータサイエンス人材に求められる要件及びニーズに関する調査」を実施

- ✓ 研究班による「看護学分野におけるデータベースの構築・利活用を推進するための6つの提言」の素案作成

本スライドの無断での転載・引用等はご遠慮ください

看護学分野でデータベースの利活用・構築を 促進するための6つの提言

提言1	看護の質向上におけるデータの利活用の意義について、 様々なステークホルダーの理解を得るために活動を推進する
提言2	日々蓄積される健康情報データを用いたデータベースを構築し、 利活用を推進する
提言3	看護職が行っている行為や観察のデータ化と記録の標準化を推進する
提言4	「データベースの利活用・構築ができる人材」と「専門家と協働できる 人材」の両方を育成する
提言5	看護学分野の学協会等でデータベースの利活用・構築を担当する部署の 機能強化を推進するとともに、複数の学協会等の協働によるデータベースの 運用・構築を目指す
提言6	看護の政策形成に求められるエビデンスを理解し、適切な研究デザイン・ データ源に基づく研究を行う

看護学分野におけるデータベースの 利活用・構築促進に向けて

本提言における用語の定義

リアルワールドデータ	臨床現場で日々記録・蓄積される医療情報や日常生活で得られる健康状態等を蓄積したデータ
データベース	リアルワールドデータを活用して看護・医療の質の向上や政策形成に有益なデータが構造化されたもの (例) <ul style="list-style-type: none">- 保険診療の請求等の保険データベース- 電子カルテ等の医療情報システム由来のデータベース- 特定の疾患患者の詳細データを収集するレジストリ- 学協会が一定規模の調査研究事業や資料収集等の活動により収集したデータを構造化したデータベース- その他、大学の研究室などの研究機関が医療機関等のデータを利用して作成したデータベース
データ	看護・医療等に関する数値や文字、記録等の総称 ※ 構造化されていないデータやデータベース化されていないデータも含む

看護学分野におけるデータベースの利活用・構築

動向と課題

データベースの利活用・構築：動向と課題

RWDを活用した データベース研究の 必要性

- 看護職（看護師/保健師/助産師）の実践による効果の評価は介入研究に重きが置かれる
- 看護職数や看護サービスの必要量の予測、労働環境、地域の医療・健康格差や医療介護資源の偏り等の把握は、RWDによるエビデンスも必要

RWDと看護職の実践 に関するデータの 現状と課題

- 既存のデータベースは、看護のデータが標準化されていない、看護実践に関連した項目が乏しい、データはあるが研究目的で利用可能な形式になっていない等の課題がある
- エビデンスに基づく政策形成(EBPM)*に求められるエビデンスを恒常に準備できる体制がない

* EBPM: Evidence-based Policymaking

人材育成

- RWDを活用した研究を学べる教育機関や学習教材は多数あり
- ただし看護学分野で体系的に学べる環境は乏しい
- RWDを活用する研究の専門家だけではなく、連携できる看護学研究者、実践を言語化できる看護師も重要

本スライドの無断での転載・引用等はご遠慮ください

看護学分野におけるデータベースの利活用・構築

推進のための提言

本スライドの無断での転載・引用等はご遠慮ください

提言 I

看護の質向上におけるデータの利活用の意義について、
様々なステークホルダーの理解を得るための活動を推進する

DBを活用した
エビデンスの構築

Well-beingの向上

臨床現場

看護師、医療・介護の様々な専門職

- ✓ 日々の記録のデータ化
- ✓ データの利活用

教育機関

大学・大学院等

- ✓ 人材育成

専門職の団体

看護系学協会・様々な学術分野の団体

- ✓ DBを活用した研究を主導
- ✓ 専門分野内の合意形成

国民

地域住民、患者・家族

- ✓ 医療・健康情報の利活用への理解
- ✓ 研究成果の還元

行政・政策

行政・政策立案者

本スライドの無断での転載・引用等はご遠慮ください

研究者

看護学研究者・様々な学術分野の研究者

- ✓ DBを活用した研究の実施
- ✓ 学際的なチームの形成

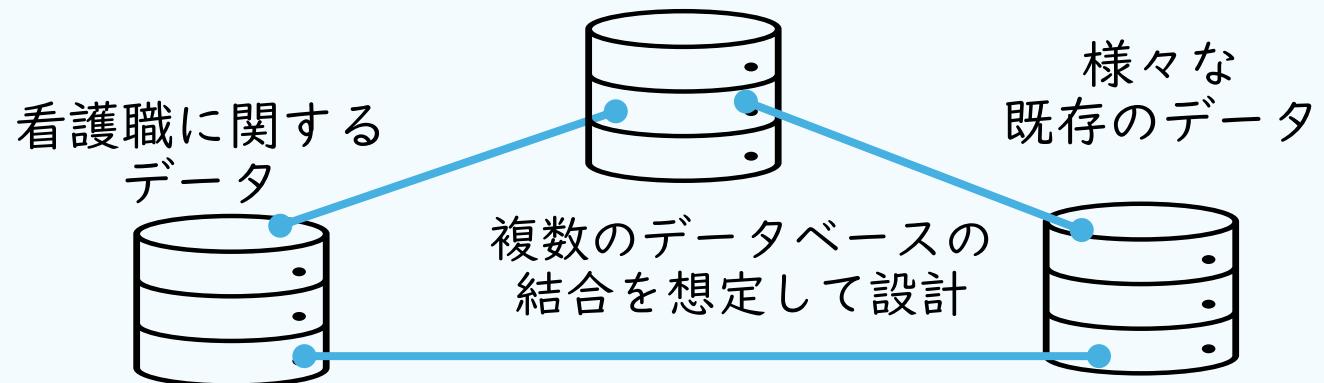
日々蓄積される健康情報データを用いたデータベースを構築し、利活用を推進する

データベースを活用するうえで必要なデータの例

- ① 看護職に関する情報
- ② バイアスの調整や患者背景の把握のための情報
- ③ 対象集団を設定するための患者の医学的な情報
- ④ アウトカムに関する情報等

一つのデータベースに
全ての情報が含まれて
いるわけではない

看護学研究で利活用可能なデータベースの構築



研究での利活用



提言3

看護職が行っている行為や観察のデータ化と記録の標準化を推進する

臨床での記録

名前：○田×雄
○月×日訪問
XXのケアを実施
前回より症状改善
呼吸困難がやや強い
自宅で過ごしたい意向が強い

名前	
訪問日	
XXのケア	<input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 未実施
呼吸困難の程度	XXXスケール []
自由記述	

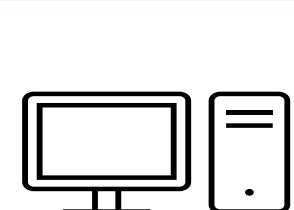


- ✓ 全ての記録を標準化する必要があるわけではない
- ✓ とくに臨床で必要とされる記録は、自由記述も重要

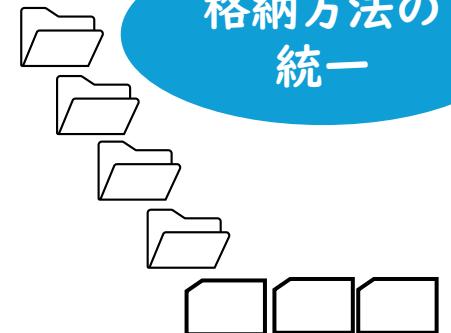
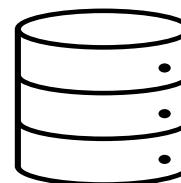


テキストデータの自由言語処理等も進んでいるが、標準化されているほど2次利用しやすい側面もある

電子カルテ等への蓄積



データベース化



格納方法の統一

提言4

「データベースの利活用・構築ができる人材」と 「専門家と協働できる人材」の両方を育成する



データベース構築の知識・
スキルを有する人

臨床の課題・明らかにしたい
研究仮説に精通している人

データベースを使った分析に
精通している人

臨床で起きていることを
言語化できる人

学際的な研究チームで研究に取り組むための共通言語を互いに増やしていく

本スライドの無断での転載・引用等はご遠慮ください

提言4

「データベースの利活用・構築ができる人材」と
「専門家と協働できる人材」の両方を育成する

データベース研究の
専門家

医療情報

データベース研究の専門家と
協働できる人材

工学

臨床実践

統計学

看護学



様々な専門分野との
協働

疫学

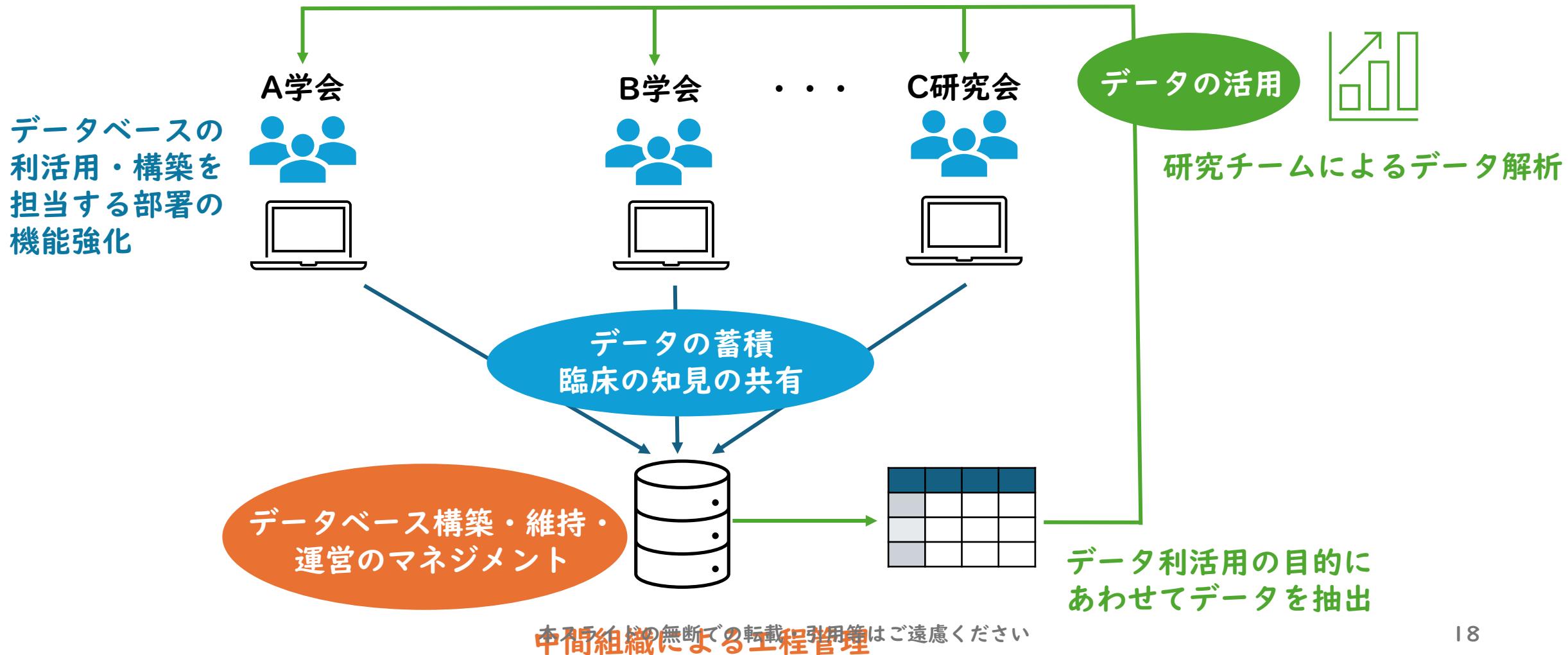
...

学際的な研究チームで研究に取り組むための共通言語を互いに増やしていく

本スライドの無断での転載、引用等はご遠慮ください

提言5

看護学分野の学協会等でデータベースの利活用・構築を担当する部署の機能強化を推進するとともに、複数の学協会等の協働によるデータベースの運用・構築を目指す



提言6

看護の政策形成に求められるエビデンスを理解し、適切な研究デザイン・データ源に基づく研究を行う

エビデンスの例

- ・看護職による行為の効果
- ・看護提供体制の評価
- ・看護サービスの必要量・供給量の予測
- ・看護職の労働環境等の実態把握

求められるデータの性質

- ・日本全体に対する代表性、一般化可能性
- ・特定の医療機関や地域等のデータ
(全国的な共通性を有する場合)

研究デザインの例

- ・介入研究
- ・コホート研究
- ・実態調査

データ源の例

- ・特定の研究目的のために収集されたデータ
- ・レセプトやDPCデータ等の保険請求データ
- ・医療情報システム由来のデータ
- ・学会等の主導によるレジストリのデータ
- ・公的データに由来するオープンデータ

* 必要なデータが既存のデータベースに含まれていなければ、新たなデータの収集・蓄積が必要
(例: レセプトやDPCデータ等の日本の代表的なデータベースは、看護職が行った行為のデータが乏しい)
本スライドの無断での転載・引用等はご遠慮ください

質問・ディスカッション

データベースの利活用・構築の視点

- 看護師の実践の可視化の必要性
- 教育活動や病院との協働のあり方
- 医療情報学・看護情報学の観点から

仲上豪二朗(東京大学)
吉永尚紀(宮崎大学)
横田慎一郎(千葉大学)

看護分野での既存データ活用や新規DB構築の視点

千葉大学大学院 看護学研究院 看護政策・管理学講座 教授
横田慎一郎

- スモールスタートで。
 - 成功も失敗も、小さく。
- まずは1目的に合目的で。
 - はじめから多目的ではハードルが高い。
- 「やってみなはれ」の精神。
 - やりたければやっている人にアプローチを。
 - プログラムも統計も生成AIに聞くといいさ。



- Sampei Y, et al. *Japan Academy of Midwifery*. in press.
 - 電子カルテの分娩記録データを用い、分娩第2期所要時間に影響する母体や分娩経過の要因を分析。
- Matsubara R, et al. *Pediatrics and Neonatology*. 2025.
 - 電子カルテから収集した、NICU入院中の極低出生体重児のデータから、子宮外発育不全の発生リスク要因を分析。
- Nishi R, et al. *CIN: Computers, Informatics, Nursing*. 2025.
 - 集中治療領域の電子カルテ記録と看護診断データを用い、看護診断名を自動提案する機械学習モデルを構築・検証。
- Kawazoe Y, et al. *International Journal of Medical Informatics*. 2025.
 - 電子カルテのアレルギー記録データを用い、日本独自のアレルゲン用語コード体系について、現実世界でのコード化可能性を示した。
- Ohta M, et al. *Drugs – Real World Outcomes*. 2024.
 - 死亡患者の電子カルテ記録データを用い、薬剤と致死的脳出血の因果関係を評価するための新規開発アルゴリズムを評価。

- Yokota S, et al. *Health and Technology*. 2023.
 - 放射線検査レポートから抽出された診断名が患者の電子カルテ記録に存在しない場合に検出・通知するシステムを開発・評価。
- Masukawa K, et al. *Palliative Medicine*. 2022.
 - 終末期がん患者電子カルテ看護記録データを用い、社会的苦痛・スピリチュアルペイン・等を検出する機械学習モデルを構築・評価。
- Aoki M, et al. *CIN: Computers, Informatics, Nursing*. 2021.
 - 電子カルテの看護記録データを用い、厚生労働省標準規格の用語セットに基づき分類する機械学習モデルを構築・評価。
- Nakagami G, et al. *International Journal of Nursing Studies*. 2021.
 - 電子カルテの入退院記録・看護記録・褥瘡管理データを用い、入院中に発生する褥瘡を予測する機械学習モデルを構築・評価。
- Yokota S & Ohe K. *Japan Journal of Nursing Science*. 2016.
 - 電子カルテデータと転倒転落インシデント記録を用い、入院患者の転倒リスクを判別する機械学習モデルを構築・評価。

質問・ディスカッション

クロージング

データベースの利活用・構築の促進に向けて

ご参加ありがとうございました

アンケートにご協力頂けますと幸いです

※配布資料のQRコード、または企画代表者の研究室ウェブサイトに掲載のアンケートフォームよりアクセス頂ければ幸いです

東京大学ナーシングデータサイエンス講座ウェブサイト>お知らせ>
交流集会にご参加の皆さんへ：第45回日本看護科学学会学術集会（2025年12月7日）

